

Monthly Report

ニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携



連携協定の基本合意書を掲げる高橋仁学長（右）と朴澤泰治理事長
奥の画面左がカンタベリー大学

本学はニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携協定を結びました。

締結式は7月16日（金）、両大学をオンラインで結ぶ形式で行いました。カンタベリー大学のシェリル・デ・ラ・レイ学長は「双方の大学は震災という特異な経験をしています。この締結は非常に重要な機会であり、現在の世界的な課題と多様な価値観を共に理解し、さらに関係を深めていきたい」とあいさつ。これを受け本学の高橋仁学長は「カンタベリー大学とは（縁あって）これまでも少しずつ交流を進めてきましたが、今回の基本合意を踏まえ、新型コロナウイルスを乗り越えて今後はスポーツ交流、教育、語学、そして防災教育などのさまざまな面で学生や教職員の交流を本格化させていきたい」とさらなる連携に期待を膨らませました。

カンタベリー大学はニュージーランドの国立大学で、148年の歴史と伝統を持ち、学生1万6000人余りが通っている総合大学です。スポーツコーチングの分野では国内有数の高い評価を得ています。

所在地であるクライストチャーチ市は大きな地震に見舞われることが多く、2011年の東日本大震災を経験した本学とは、2016年より被災地復興をテーマに学生交流を行っています。



画面左の左から2番目、シェリル・デ・ラ・レイ学長

目次

・ニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携	1
・朴澤泰治理事長が栄えある「旭日中綬章」を受章 ～私学経営者として顕著な歩み～	2 3
・令和3年度「緑と水の森林ファン」助成事業に採択	3
・奄美・世界自然遺産登録に思うこと	4
・亘理町、日本クリケット協会と3者協定／競技普及で東北の拠点づくり ・本年度も「教探塾」スタート／150人、熱心に受講 ・親子わくわく運動あそび／動画配信	5
・成田行磯（体育・3年）、男子単でインカレ出場へ／バドミントン部 ・2大会連続インカレ出場権獲得／男子ソフトボール部 ・宮城県代表として東北予選出場へ／男子バレーボール部	6
・バドミントン部、部活動支援で成果／大河原中が東北大会へ ・全勝優勝 3年ぶり2度目の全国大会へ／Futsal部 ・仙台大クラブ準優勝！ 天皇杯東北ラウンドへ／男子バレーボール部	7
・芝草通信 NO. 27	8
・ベラルーシ新体操チームにエール／オンラインでもがっちり絆／SAKURA CAMP2021 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 39	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

朴澤泰治理事長が栄えある「旭日中綬章」を受章 ～私学経営者として顕著な歩み～



本年4月、令和3年春の叙勲および褒章受章者が発表され、学校法人朴沢学園・朴澤泰治理事長（74歳）が、栄えある「旭日中綬章」を受章されました。これは、国家または公共に対し功労があり、顕著な功績を挙げた方に授けられる栄誉です。

朴澤理事長は、仙台一高を卒業後、東京大学法学部に進学。卒業後の昭和45年、武田薬品工業(株)入社、本社在職中は薬害・公害訴訟にも関わるなど、20年余、日本の高度経済成長期を企業人として社業の発展に専心されました。母君の客死等もあり、昭和63年2月、学校法人朴沢学園の非常勤理事・評議員に就任したことを皮切りに、私学経営者としての新たなキャリアをスタートさせ、平成3年4月、同学園理事長就任と同時に、設置する朴沢女子高等学校（現：仙台大学附属明成高等学校）および仙台大学の拡充に努めてこられました。高校部門では、平成8年から4年間、校長を兼務した他、理事長就任直後から、「明成」への校名変更、男女共学化、学園創立120周年記念事業実施、河北文化賞受賞や卒業生制作物の仙台市文化財指定その他の学園歴史の正当な評価への導き、学科改編および大学附属高校化などに、大学部門では、平成20年から6年間、学長を兼務した他、同じく理事長就任直後から、単一学科から複数学科制への移行、大学院開設、スポーツ科学専攻領域の分野拡大、後述する国際交流の促進、各種の教育施設・設備の整備拡充、大学創立50周年記念事業実施などに、それぞれ、心血を注がれました。

高等教育に係る公的な面では、平成15年4月から5年半就任した体育大学協議会（現：一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会）会長時代には、体育系大学のさらなる連携を企図し、自らスポーツ・健康系学科の新設大学に出向き同協議会加盟を呼びかけ、加盟校拡大を図るとともに、中教審スポーツ青少年分科会専門委員として栄養教諭制度創設にも関わり、さらに厚生労働省からの健康運動指導者育成に係る体育系大学の協力要請を受け、「健康づくりのための運動指導者普及定着方策検討委員会」委員を務めるなど、省庁を超えた体育系大学のパイプづくりにも尽力されました。また、仙台大学が加盟する私立大学協会では、理事長就任時から継続して協会評議員を務め、外部認証評価制度導入後は、日本高等教育評価機構の認証評価に係る評価員団長、評価判定委員会委員なども歴任されました。

地元宮城県においては、平成12年4月から4年間、宮城県私立中学高等学校連合会会長および県私学審議会委員を、平成19年7月から3年間、宮城県私学経営者協会会長に就任して、地方私学間の連携強化を呼びかけるとともに、高校教育面での県立高校将来構想審議会委員、また東北大学病院運営諮問会議委員等も歴任され、平成29年に県知事表彰(教育文化功労)を受けられました。この他、企業勤務時代から加入している官民人材の資質向上および相互理解促進を目的とする団体(財団法人浩志会)の地方会員として各界連携の一翼を担うとともに、東京大学同窓会地方組織の「仙台赤門会」創設などにも寄与されました。

第10代学長だった平成23年3月に起きた東日本大震災では、被害により卒業式が実施できなかった卒業生のために、全卒業生の名前を刻んだプレートを第五体育館に刻む他、津波で亡くなった学生たちを悼む慰霊碑を建立し霊を弔いました。

この間、世界で活躍する人材の輩出を目的として精力的に海外へ出向き、東北師範大学・瀋陽師範大学・上海体育学院、青海省体育科学研究所、台東大学・龍仁大学・シーナカリニンウィロート大学・ホーチミン市立体育大学といったアジア圏、ハワイ大学・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校という米国圏、新体操強豪国のベラルーシ国立体育スポーツ学院・カヤーニ応用科学大学・オルデンプルグ大学など、海外の11か国18大学・1研究機関と学生の交換留学や教員の共同研究を広めるにいたっております。その集大成として平成29年10月には、「開学50周年を祝う記念事業国際交流イベント」を開催、ゼビオアリーナ仙台において、上記の全関係者と学生たちを招き、各国の伝統ある素晴らしい民族舞踊や演武が上演されるとともに、体育系大学として体操・新体操演技や日本武道を披露し、国内外の来賓や一般の方々、近隣の小・中学生・保護者・設置校の学生と生徒など、約3000人が魅了される行事となりました。

また、仙台大学附属明成高等学校を卒業後、バスケットの名門・米国ワシントン州のゴンザガ大学に進学、今やNBAプレーヤーとして2020東京オリンピックでは名誉ある旗手もつとめる世界の八村塁選手を育てたことも特筆に値する業績です。

朴澤理事長の生涯の恩師であり、本学の英語教授であった故田中久子先生は「おのれにまさる弟子なきは恥ずべき師なり」と、自分よりも秀でた学生を育てることこそ教師の務めであると諭されましたが、朴澤理事長は、この言葉を何より大切に実践してこられました。

綬章に際し、朴澤理事長は、関係者への謝辞とともに、「『蟻の一穴』を座右の銘に、歴史の正当な継承が自らの務め」と語っています。

これからも朴沢学園142年の歴史と伝統を胸に、教職員一丸となって、仙台大学と仙台大学附属明成高等学校の発展に寄与されることと思います。



米国ワシントン州・ゴンザガ大学において八村塁選手を応援

略歴

学 歴	昭和40年	3月	宮城県仙台第一高等学校 卒業
	昭和45年	3月	東京大学 法学部 卒業
職 歴	昭和45年	4月	武田薬品工業(株)
	昭和63年	2月	(学)朴沢学園 理事・評議員(現在に至る)
	平成 3年	3月	武田薬品工業(株) 退職
	平成 3年	4月	(学)朴沢学園 理事長(現在に至る)
	平成 8年	4月	明成高等学校長 兼務(平成12年3月まで)
	平成12年	4月	宮城県私立中学高等学校連合会 会長(平成16年4月まで)
	平成12年	7月	宮城県私学審議会 委員(平成16年7月まで)
	平成15年	4月	体育大学協議会 会長(平成19年9月まで)
	平成15年	6月	中央教育審議会スポーツ青少年分科会専門委員(平成16年2月まで)
	平成16年	4月	東北大学病院運営諮問会議 委員(現在に至る)
	平成19年	4月	健康体力づくり事業財団健康運動指導者養成事業運営委員会 委員(平成26年3月まで)
	平成19年	7月	宮城県私学経営者協会 会長(平成21年7月まで)
	平成20年	4月	仙台大学長 兼務(平成26年3月まで)
	平成20年	7月	宮城県立高等学校将来構想審議会 委員(平成26年7月まで)
	平成23年	4月	日本高等教育評価機構大学評価判定委員会 委員(平成31年3月まで)
表彰歴	平成26年	4月	仙台大学学事顧問 兼務(現在に至る)
	平成29年11月		宮城県知事表彰(教育文化功労)
	平成30年	6月	一般社団法人全国栄養士養成施設協会表彰(永年栄養士養成教育功労者表彰)

令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成事業に採択

このたび、柴田千賀子教授の「森林環境と幼児のストレスに関する研究」が、令和3年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業に採択されました。

本事業は、幼児および青少年を対象とする森林環境教育の促進を目指すものです。森林環境での活動と幼児のストレス軽減との関連を明らかにすることは、日本はもとより世界の子どもたちの健康問題解決に寄与するのではないかと期待されています。



初寄稿シリーズ

奄美・世界自然遺産登録に思うこと

中里 寛 教授（令和3年4月着任）

7月26日、ユネスコ世界遺産委員会は、鹿児島県の奄美大島と徳之島、それに沖縄県の沖縄本島北部と西表島を新たに世界自然遺産に登録しました。「アマミノクロウサギ」をはじめとした固有の生き物が生息し、生物の多様性が残る貴重な地域としての価値を高く評価されたものです。

私は、過去5回奄美大島を訪れております。今回、自己紹介を兼ねて私が奄美を愛する理由などについて若干お目汚しをさせていただきます。

奄美大島は世界自然遺産に登録されただけのことはあって手つかずの自然が残っているところですが。これには訳があり、道を外れた場所にはハブが出るため、人はむやみに山に入ろうとはしません。道路脇のあちこちに「ハブ棒」と呼ばれる2メートルくらいの棒が常置されており、地元民がハブを見つけるとこれを使って捕獲、一匹3千円で役所が買い取ります。毎年2万匹弱のハブが買い取られ、それに要する予算は年間5千万円以上といいますから、人々のハブそして山への恐れというものが分かります。そのような経緯もあって自然の美しさは圧倒的ではありますがそれとともに山、海、そして神への畏敬の念というものは奄美の人々の生活文化、宗教性、人々の人生観や幸福感のありかたというものに密接に影響しています。現在でも島には数多くのユタ（霊能者）が存在し、人々は困ったことがあればこのユタに相談をします。私も島を訪れた際、二度ばかりこの神様（人々はユタではなく「神様」と呼ぶ）を訪ね、占いをしてもらいました。祭りの文化、それに関わる島唄や踊り、食文化にしても、自然と神の世界、そして人間の生活が一体化しており、日常と非日常が混在する幻想的なムードを漂わせています。観光客も居酒屋に行けば地元民と一緒に三線（三味線）とチヂン（太鼓）をならし、歌え踊れの大騒ぎです。もちろん、秋祭りの期間は多くの集落で徹夜の踊りが繰り上げられます。

一方で庶民の生活は慎ましく華やかさとは縁がありません。2019年の平均年間所得データは以下ようになっており、奄美島民の所得は宮城県の半分ちょっとといったところです。しかし日常の島民の暮らしぶりを見ると世間話が好きで人付き合いも良く、必要最小限働いて、あとは親族や仲間とゆったり楽しい時間を過ごすといった人間関係志向であることが分かります。

宮城県の年間平均所得	445万円（23位）
鹿児島県の年間平均所得	397万円（38位）
奄美大島の年間平均所得	250万円（奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町）

奄美ほどの自然豊かな場所になると、親戚や近所間での生活物資の相互扶助の割合が相当高く、収入の額で幸福度を測ることはあまり意味のないことでもあります。

中国の企業が、この島の一部を大規模に買収し、豪華客船の停泊が出来る港とリゾート施設の建設を度々画策しました。地域活性化を狙う行政は誘致の意向を示しますが、地域住民は漁協を先頭として徹底して反対に回り、撥ね付けてきた経緯があります。島民の価値観や幸福の在り方は貨幣経済に縛られぬ確固たるものがあります。たくさん歌や踊りを大切に育て、守ってきたその精神性の高さや豊かさというものは、人は本来どう生きるべきか、ということに対して示唆を与えてくれます。

グローバル化の波に抗ってなおり、この島の自然と文化を守り抜こうとする島民の姿は私たちに「真の豊かさとは何か」を問わずにはいません。グローバル化と無秩序な開発の波に翳りが見える今、人にとって真の幸福とは何か、私たちの常識というものを一度は見直すべき時代なのかも知れません。今回の世界自然遺産登録に、このような島民の思いというものが重なって見えました。



瀬戸内町西古見集落・唯一の商店

亶理町、日本クリケット協会と3者協定／競技普及で東北の拠点づくり

本学は、宮城県亶理町および日本クリケット協会との3者で「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する連携協定」を結びました。

締結式は7月20日（火）、亶理町庁舎内で行いました。亶理町の山田町長は「亶理町は整備された施設を有効活用するため、亶理町をサッカーに次いで世界的に競技人口のあるクリケット競技の東北の拠点と位置付け、この連携が交流人口の拡大や国際交流につながることを期待する」とあいさつ。本学の高橋仁学長は「亶理町とは、4月下旬に包括連携協定を結びました。スポーツにより亶理町の活性化に協力できればと思っておりましたが、本日の日本クリケット協会との連携によって、クリケットを通じ少しでも町の役に立てるよう頑張っていきたい」と応えました。

日本クリケット協会の宮地直樹事務局長は「2018年にスタートした5カ年戦略で、関東以外の地域にクリケットを広げるべく拠点づくりをしてきました。東北地域の中心・戦略的拠点として亶理町を『クリケットのまち』として、大会開催など、クリケットの普及のために重点的に事業展開し、交流人口の増加や国際交流機会の拡大等に貢献していきたい」と期待を寄せました。

亶理町は、世界への文化発信をテーマとするWATARI TRIPLE C PROJECTを今年度から本格稼働させており、併せて東日本大震災の復興事業で整備した鳥の海公園多目的広場を東北におけるクリケット競技の拠点として位置付けています。広場は8月1日（日）にグランドオープンする予定です。

本学は亶理町同様、これまで以上に市町村等との連携協定の可能性を積極的に探ってまいります。



本年度も「教採塾」スタート／150人、熱心に受講

本学は毎年、教員を目指す学生のために、専門知識を有し教育現場で豊富な経験を持つ教員が年間を通して指導する「教採塾」を開設、教員採用試験に合格するためのスキルアップをはかっています。

「教採塾」開始式は6月29日（火）に2～4年生、30日（水）は1年生を対象に本学内で行われ、約150人を集めて行われました。教員採用試験対策に必要な心構えや、今後の「教採塾」スケジュールについての説明がありました。

高校教員の経験がある高橋仁学長は「とてもやりがいのある魅力ある仕事」と話して激励。1年生対象の開始式では、教採塾の実技を主体とする「チーム教採」のチームリーダー、江藤花奈さん（現代武道学科4年）と大沼明美さん（運動栄養学科3年）は「チーム教採では学生同士で得意な実技について助言したり、苦手実技を教えてもらうなどお互いに共有できることが魅力の一つ」と説きました。

今後は、7月上旬よりオンラインによる学びを中心とした教員採用試験対策が始まります。



親子わくわく運動あそび／動画配信

子ども運動教育学科は親子による運動あそびの動画配信を始めました。幼児教育法のノウハウを活用し、乳幼児と保護者が一緒になって体を動かします。

第1弾は「2歳児対象」です。2歳になると、歩いたり走ったりして、行動範囲が徐々に広がってきます。何でも興味を持ち「自分でやってみよう」という自発性や自立心が芽生える時期であるため、子どもの動きたいという欲求を大人も受け止めることが肝心です。お子さんと楽しく運動して、「こころ」も「からだ」も健やかな成長に活用してください。

動画は仙台大学YouTube公式チャンネルからご覧ください。



成田行磯（体育・3年）、男子単でインカレ出場へ／バドミントン部

バドミントンの東北学生インカレ推薦選考会が6月14、15（火）の両日、山形市の山形県体育館で行われ、男子シングルスにおいて成田行磯（体育・3年）が3位入賞し、10月に奈良県で開催の全日本学生選手権（インカレ）への推薦権を獲得しました。大会は本来、東北学生選手権・春季リーグ戦として開催されますが、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から大会が中止・縮小を余儀なくされ、「選考会」という形になりました。

本学は通常なら部員全員をエントリーするところですが、大会の規模縮小に伴って選抜メンバーで臨みました。

○成田行磯のコメント

3位入賞は優勝を目指してきただけに満足はしていませんが、まずはインカレへの推薦出場が決まり安堵しています。インカレ出場は今大会の他に、9月に仙台で開催される東日本インカレでも出場権を取るチャンスがあります。私以外の部員もインカレの出場権を獲得できるよう、そして個人的にはインカレ上位に入るよう、部員一丸となって練習に励んでいきたいと思います。

<バドミントン部>



2大会連続インカレ出場権獲得/男子ソフトボール部

6月27日（日）に、2021年度全日本大学ソフトボール選手権北海道・東北地区予選会が岩手県八幡平市で行われ、男子ソフトボール部が見事に優勝を果たし、2大会連続でインカレ出場権を獲得しました。

大会は当初5月実施の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期開催となりました。出場校は3大学で、リーグ戦形式で戦いました。初戦の宮城教育大学戦では一回に高橋の先頭打者本塁打で先制すると四回までに8点を積み重ね、8対0で五回コールド勝ちを収めました。福島大学戦は両チームに本塁打が飛び出す乱打戦となったものの、17対10で六回コールド勝ちしました。

全日本大学選手権は9月11日から富山県で行われます。



今回、コロナ禍の中、大会運営していただきました東北ソフトボール協会および岩手県ソフトボール協会ならびに関係の皆様方に御礼申し上げます。

<男子ソフトボール部>

宮城県代表として東北予選出場へ/男子バレーボール部

7月4日（日）に第76回国民体育大会バレーボール競技宮城県選考会が多賀城市総合体育館にて行われ、仙台大学が宮城県代表として東北予選出場権を獲得しました。

本学男子バレーボール部は仙台大学、仙台大学クラブ、宮城の3チームで出場し、結果は次の通りでした。

○1回戦

仙台大学 2 (25-16、25-23) 0 宮城

仙台大学クラブ 0 (26-28、28-30) 2 東北学院大学

○決勝戦

仙台大学 3 (25-23、25-20、25-27、25-19) 1 東北学院大学

この結果を受け、仙台大学は8月20日（金）～8月22日（日）に山形県天童市で行われる東北予選に宮城県代表として出場します。

引き続き、男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

<男子バレーボール部>



バドミントン部、部活動支援で成果／大河原中が東北大会へ

本学バドミントン部は地域の学校の部活動支援に取り組んでいます。実際に学校現場に赴いて指導、基本動作から試合の戦術までアドバイスを送っています。効果が徐々に表れ、部活動の成績もグングン上昇中です。

伴野匠（体育・コーチングコース3年）は本年2月から大河原町大河原中で指導をしています。コーチングコースの必修科目「スポーツコーチング実習」の一環も兼ねており、自ら指導方法の在り方を現場で学んでいます。

教えて学ぶ、学んで教える。試行錯誤の繰り返しの中で「実りの花」が ついに咲きました。大河原中は宮城県中学総合体育大会（7月24～27日・仙台市内）で女子が準優勝し東北大会（8月7～9日）への切符をつかんだほか、男子が3位と大健闘したのです。

伴野は生徒達の成長に「さらにコーチングのスキルアップを図りたい」と目を輝かせています。

バドミントン部は今後も「地域貢献」の観点から部活動指導に取り組んでいく所存です。

<バドミントン部>



前列右：伴野匠（体育・コーチングコース3年）

全勝優勝 3年ぶり2度目の全国大会へ／Futsal部

2021年7月10日（土）～11日（日）、宮城県中新田体育館でJFA第17回全日本大学フットサル大会東北大会が開催され、本学Futsal部は3年ぶり2度目の優勝を飾りました。

今大会は新型コロナウイルス対策で参加を見送る大学が多く、4チーム総当たり（東北大学、岩手大学、秋田大学、仙台大学）で戦いました。

結果は以下の通りです。

仙台大学 4-2 岩手大学

仙台大学 1-0 秋田大学

仙台大学 5-3 東北大学



写真提供：OMIYAGI ONE DREAM

全国大会は8月27日（金）～29日（日）に大阪府岸和田市体育館で開催されます。東北代表として一つでも上にいけるよう準備をしております。

最後に、対策を徹底したうえで大会を開催して下さった主催者の皆様、いつもご支援をくださっている大学、保護者の皆様にあつく御礼を申し上げます。

<Futsal部>

仙台大クラブ準優勝！ 天皇杯東北ラウンドへ／男子バレーボール部

バレーボール男子の2021年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会宮城県ラウンドが7月18日（日）、多賀城市総合体育館で決勝が行われ、仙台大クラブとして出場した本学は東北学院大学に屈し東北ブロックラウンドに回るようになりました。

試合結果は次の通り。

準決勝 仙台大クラブ 2 (25-12、25-21) 0 Team船岡

決勝戦 仙台大クラブ 0 (20-25、30-32) 2 東北学院大学

東北ブロックラウンドは9月11日（土）、12日（日）に宮城県多賀城市と利府町で行われます。本学は宮城県第2代表として出場します。一方、本学は既に大学のカテゴリーで出場権を獲得しているため、同ラウンドは仙台大学、仙台大クラブの2チームで出場します。

<男子バレーボール部>



準優勝の仙台大クラブ

芝草通信 NO. 27

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

芝生地の掘り起こしについて

野菜などは収穫後や春先に土壌表層を掘り起こして、表土を柔らかくしたり、肥料を混合したりします。粒度の大きいサイズの砂壤土と微粒子として表層に滞留しているシェルと質壤土を混合して粒度分布を調整します。土壌を調整することによって植物の育成を促進し、収穫を高めます。

しかし、多年草である芝草は掘り起こしが叶いません。そこで土壌固結し排水不良や空気の呼吸が苦しくなった表層をコアリングして古い土壌を抜き取り部分的に目砂に入れ替えます。サッチ(刈り粕の残滓)が多すぎたり古くなったりして土壌微生物の分解を阻害するようにもなりますので、同様に目砂に置き換えます。この方法が土壌更新作業として標準ですが、簡易的にコア抜きをせずに、丸形のタインや十字型のタインの工具を用いて穴開けをします。この方法は穴を開けるだけです。周辺の密度は高まりますがコアリングに似た効果が得られます。今回使用したバイブロエアレーションは穴開け作業と同時にタインを前後に振動をかけることにより大きな穴になります。

第二グラウンド天然芝生面全面と噴水廻り芝生を実施しました。写真のようなピッチと深さで行いましたので芝草の根茎が切断されています。そのために見た目では一定のピッチで芝生が50mm角程度の裸地になっていますが、根茎が切り取られた為に一時的に芝草がなくなっています。古い根茎が切断されたところから新しい新鮮な根茎が伸長してきて何れ芝生で覆われます。



写真1 バイブロエアレーション
機械全景、
トラクターに牽引されたアタッチメント



写真2 バイブロエアレーション
アタッチメント部分「
タインを振動させて穴開けする



写真3 穴開け状態
一定間隔で穴が開いている深さはボールペ
ンの差し込まれた位置まで



写真4 差し込んだボールペンの深さ
を表す位置

(7月29日記)

ベラルーシ新体操チームにエール／オンラインでもがっちり絆／SAKURA CAMP2021

東京五輪の新体操競技に出場するベラルーシのナショナルチームが事前合宿のため白石市に來訪したのにあわせ7月27日（火）、ホストタウンの白石市、柴田町・本学、立川市（東京都）をオンラインでつなぎ、選手団にエールを送りました。

同チームは2017年から2019年にかけて本学と白石市の2会場を練習会場としておりましたが、コロナ禍の影響により大会直前の合宿を白石市のホワイトキューブに集約しました。練習と生活は外部との接触を避ける「バブル方式」が採られています。

歓迎式では事前合宿招致推進協議会の会長を務める朴澤泰治理事長が「事前合宿が東京五輪での素晴らしい栄冠につながることを確信しています。ぜひ白石キューブで有意義な時間を過ごしてください」と宮城の地での実りある練習に期待を寄せ、「日本での五輪を大いに楽しんでください」とも呼び掛けました。

選手団からはイリーナ・レパルスカヤ ヘッドコーチが「この大変な時期でも私たちはあきらめず練習を続けてきましたが、それ以上に柴田町・白石市・立川市・仙台大学と一日たりとも交流が途絶えなかったことがとても素晴らしいことだと思います。またこの素晴らしい環境を整えていただいたことに感謝しています。皆さんの声援を裏切らないように全力を尽くします」と頼もしい意気込みを披露してくれました。

チームは8月6日に始まる新体操競技に向け、8月1日まで練習を行い、8月2日にオリンピック選手村へと出発します。



仙台大学を会場にエールを送った（左から）高橋仁学長、朴澤理事・学事顧問、滝口茂柴田町長、船迫邦則柴田町教育長ら



「高校スポーツの安全を守る」Vol. 39

担当：白坂 広子 助手

熱中症講習会を開催中です！

明成高校は7月22日から夏休みが始まりました。毎年夏休みが始まる頃は梅雨明けも重なるため、フィールドや体育館の気温は一気に上がります。夏休み中にWBGT値が31を超えることは少なくなく、生徒たちの体調管理や熱中症予防はとても重要です。私たちは例年熱中症講習会を夏休み前に行いますが、その理由は練習時間が夕方から日中に変わる前に暑熱順化を行い、適切な水分補給方法を身に付けさせるためです。熱中症を予防する一番の対策は何といっても「適切な食事」と「適切な水分補給」ですが、特に水分補給については講習の中で詳しく教育しています。「適切な水分補給」とは具体的にどのように行うのか、水分摂取の頻度、タイミング、量、そして内容について話しています。

水やお茶を好んで飲む生徒を多く見かけますが、運動中に水やお茶ばかりを飲むとナトリウム欠乏を引き起こす可能性があり、筋けいれんやめまいを引き起こしかねません。また、脱水状態になっていないかどうか、休憩時間や部活動終了時にどのように確認をしたらいいのか、など、多くのことを講習しました。7月17日は明成高校オープンキャンパスがあり、多くの中学生が部活動体験で来校しましたが、気温が一番高い瞬間で37.7度まで上がり、WBGT値は31以上を指していました。このような中、体調不良者が出ることなく無事にオープンキャンパスを終えることができたのも、日ごろから高校教職員の皆様とATの連携のなかでの注意喚起の成果や、上級生を教育し続けてきたことでチームとして熱中症予防を行えている成果だと思いました。まだまだ暑い日が続きそうですが、今年も熱中症発症0件を目指して活動を継続していきたいと思っています。

